

日風堂

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉第126号 令和7年(2025)9月1日

資料見聞

武市半平太の獄中画

武市半平太は36年の生涯の中で、多くの書や画を残しています。

画について半平太は、土佐藩御用絵師を務めた弘瀬洞意と砲術家でもある徳弘重斎から学んだと言われています。(寺石正路『土佐偉人伝』)

当時、書画は武士の嗜みではありませんでしたが、半平太も例に漏れず南画(中国の影響を強く受けた画派)を好んだようです。竹の節や葉、山水図に見られる急峻な山や深い谷を泳ぐ小舟、そびえる樹木の描き方は日本画のテイストを持ちつつ、大陸文化の影響を強く感じさせます。

半平太は牢に入られている間も、書や画を描いています。

度々、妻の富に、印や筆、絵の具の催促を行い、「安樂堂」で「写(描)」

いたと画の端にサインを残しています。

「安樂堂」とは、牢屋を指すと言います。

中国南宋末期の政治家で軍人の文天祥が、捕虜となった際、牢屋でつくった「正気歌」からもじり、半平太のみならず「在獄諸氏」が好んで使用したそうです。(野島梅屋「瑞山先生の獄中の画」『武市瑞山関係文書二』)

半平太の創作活動は、悪臭漂い、ネズミの這う悪環境の中で心の慰めもあったでしょうが、半平太を慕う牢番に頼まれ、取り調べのない日にしばしば行われたことが、獄中からの書簡に見られます。

左の資料は、当館管理の半平太筆「竹梅図」の内の竹図です。水汲みとして半平太に近侍していた者を介して、牢にいる半平太に計3幅の画を描いても

らったという謂われがついています。依頼者はどういう思いで、牢の中の半平太に書や画を依頼し、それを手許に招いたのでしょう。

当時、半平太との関係の発覚を恐れ、関係の品々を火にくべたという人が少なからずいました。

その一方で、半平太に描いてもらったという由来書きまで残し、箱の中に大事にしまつて手放すことのなかった人々もいます。

残されたその1点、1点には、研究者でも計り知れない様々な歴史物語が隠されています。(青井)



竹梅図(当館管理)

企画展 武市半平太の書画

会期：令和7年10月10日(金)～令和8年1月12日(日) 青井恵理香

令和7年は、幕末の土佐を代表する土佐勤王党の盟主武市半平太の没後160年という節目にあたります。

半平太と言えば、妻・富に宛てた愛情こまやかな手紙が有名ですが、書や画を好んだ一面もあり、調査しますと県内だけでも資料館収蔵、個人所有含めて50点を超える書画が現存していることがわかりました。

本企画展では、半平太の事績を選びすぐりの書画を中心に振り返りつつ、その歴史に思いを巡らせていただければと思います。

■武市半平太の歩み

半平太は文政12年(1829)、吹井村(現高知市)で、武市半右衛門の長男として生まれました。この頃、既に武市家は白札と言って、上士(士格)と下士(軽格)の間にあり、上士(士格)に準じる扱いを受けていました。

半平太は文久元年(1861)8月に、「皇国の禍」を「攘」うため、却って「言ひ争ひ」を井伊直弼と起こし「罪を得玉ひぬ」山内容堂(1827～1872)の「御志を継」ぎ、攘夷を

目指し土佐勤王党を設立します。

半平太はこの前月の7月19日に、島村壽太郎に宛てて、ロシア軍艦が対馬に滞留し、牛の取引を巡って対馬藩と対立した事件のことを書き送っています。欧米列強の前に、消極的になっていく日本国への憂いやあせりが、土佐勤王党の創設に向かわせたようにも読みとれます。



武市富押絵(武市家寄贈)

このあと、攘夷を推進する孝明天皇を中心とした国家の成立を目指して、全国で尊王攘夷運動は過激になっていき、各国の大名たちはこの対応に苦慮しはじめます。徳川将軍家を頂点としてこれまで政治を行い、預けられた国を管理して来たという背景から、徳川幕府とは切っても切れない関係であったためです。



武市半平太獄中自画像(部分)(武市家寄贈)

やがて、勤王党の首領であった半平太は、牢屋に入れられることになりました。

入牢した当初、半平太は、自分は無実であるため、すぐに釈放されるものと考えていました。

しかし、岡田以蔵が大坂から移送されると状況が一変します。半平太はしばし発生した天誅事件への関与も疑われるようになり始めました。あれは以蔵の勝手にやったこと、自分には関係がないと半平太は頻りに主張しますが、取り調べは何度も行われます。

藩としては、半平太を消してしまえば、土佐国の尊王攘夷運動を主導する者はいなくなり、政治状況も安定すると考えたのでしょう。半平太は最終的に、徒党を組み、人心を扇動し、公家や山内容堂へ立場を弁えずしはば不屈きなことを提言し、「国憲」(国の基

本的な方針)を乱したとして、切腹を命じられることになりました。

慶応元年(1865)閏5月に36年(数えて37年)の生涯を閉じることになったのです。

■顕彰される半平太

半平太は「国憲」を乱した罪で切腹しましたが、時代が変わり、明治5年(1872)に「勤王ノ志篤」く「尽力ノ余」りに思いがけない災難に見まわれ死亡したことを憐れに思った明治天皇から金が下賜され、名誉回復が行われ始めました。

元土佐勤王黨員である三宅謙四郎は、半平太の名誉回復を積極的に行った一人です。半平太の書画に、その内容や半平太自身を讃える自作の詩を添えるようになります。

半平太など当時勤王活動に勤しんだ人たちを讃える活動は、明治から大正にかけて盛りあがります。樹立した新政府では薩摩や長州に圧されて、土佐人が活躍できず、見る影もなくなっていく悔しさもあったのでしよう。

高知県立坂本龍馬記念館蔵の半平太の小梅図には、尊王攘夷派の公家でもあった東久世通禧と佐川町出身の自由民権運動家である山本憲の書が二作添えられています。

山本はそ中で「滄浪(間崎哲馬)

が死に、瑞山（武市半平太）が逝き、龍馬（坂本龍馬）が倒れたが、もしこの数人を今なお生かしていたならば、維新復古の功における土佐藩の名声は、どうしてこんなに奥深く薩長二藩の下に出ることがあったろうか」とその死を惜しんでいます。



武市半平太画帳（当館蔵）

自由民権運動を研究している高知城歴史博物館の高木翔太学芸員によると、民権家は自分たちが政権を担う根拠として、「維新革命の精神」は薩長の藩閥政府ではなく、自由党（土佐）が受け継いでいると捉えています。龍馬や半平太等の活動が自由民権運動の源流であり、自身等（土佐）に正統性があるとして、政治に割り込む運動をしていました。

半平太の死は、こうして、政治活動に利用されていくことにもなっていました。

ます。

大正元年（1912）には宮内大臣を務めた田中光顕ら40人がつくる瑞山会が『維新土佐勤王史』を発行し、つづけて大正5年（1916）には各地に散らばる半平太関係文書をまとめた『武市瑞山関係文書』を2冊あわせて出版しました。

『維新土佐勤王史』は半平太や龍馬、中岡慎太郎などの伝記をまとめあげたもので、国家のために身を犠牲にした者たちの実績を紹介しています。そこには勤王活動は半平太たちが先導し、維新の魁は土佐であったと主張するねらいも見受けられます。

とはいえ、半平太の名誉回復がなされたからといって、武市家の零落を止めることは難しかったようです。

20歳で半平太に嫁ぎ、大正6年



武市半平太画帳（当館蔵）

（1917）、87歳（数えて88歳）でその生涯を終えた武市富（旧姓島村）は、中肉中背でやさしい面差しのかわいいおばあさんで、朝晩の挨拶、帰宅時、食事の挨拶行儀作法などの躰はきびしく、武士の夫人としての凜とした風格を備えていたと思ひ出話が残されています。

半平太と富の間には実子はなく、養子をとる計画がありましたが、半平太が入牢したことで一度立ち消えになっています。

改めて武市家に養子が来たのは、半平太の亡きあとで、養子となった男児は、半太、とその名前を変えています。田中光顕は、この半太を医者にするべく、あちらこちらに話しかけ、半太のための学費を集めたといえます。半太は周囲の期待を受け止め、医師になっています。

しかし、その生活はつましやかだったといえます。富からの願いで「買いとった」という半平太筆の軸やゆかりの刀が、半平太や富と親しく交流のあった個人宅に残されています。

富は晩年、80歳を超えて初孫が生まれた喜びを和歌一首に残しています。

「八十路坂とくにこえし身に初孫の守りぞだつるぞたのしかりける」

決して平坦ではなかった富の半生の中に満ちた光りがうかがわれるようです。

■半平太と書画

半平太は高知城下で道場を営み、剣術修行として江戸へ赴き、桃井道場で鏡心明智流を皆伝したほど武の心得のある人物でした。

また、藩命で大坂を訪れた際は、浄瑠璃を楽しんだ文化人的一面があり、半平太自ら節をつけた「道中亀山嘶」や「関取千両幟」といった浄瑠璃本が武市家に残されています。

半平太は書や画を画く際、複数の雅号を用いました。雅号は所謂、ペンネームです。半平太自らつくったものと考えられます。そこにはどういった意味が込められていたのでしょうか。

半平太の雅号は、瑞山ほか、茗礪（茗小礪）、橘圃などが知られています。

特に、茗礪（・茗小礪）は、家の近辺に茗荷が多く栽培されていた説が根強



武市半平太画帳（当館蔵）

いますが、梅梁生が「勤王史編纂の当時、執筆者坂崎紫瀾より材料に就て本村（吹井村）に問合の来りたる時、村中の者が十分に事実を究めずして、臆度推測を以て、不実の答を為したる」と昭和8年発行の『土佐史談』に投稿した記事の中で指摘しています。

また、ほかの雅号についても「瑞山の父・半右衛門は、深く心を産殖に留め、居宅内外の畑地に多く柿、蜜柑等の果樹、及び楮、茶等を栽う。瑞山に茗礪、橘圃の別号あるは、此が為の故である」と言います。

「茗」の文字を『日本国語大辞典』で調べたところ、「茶」を意味するとあります。

梅梁生は、半平太の父・半右衛門が植えた「茶」が雅号の由来と言い、「畑地に父の栽えたる茶樹が多かりしを以て、茶に取りて茗礪と号したのである」と考察しています。

半平太による雅号の由来書きは残されていませんので、真相は半平太以外にはわかりません。雅号の使用年代なども今後の研究調査での課題です。描かれた画のモチーフやタッチだけ

でなく、そこに添えられた半平太の生まれ育った環境や半生をしのばせる雅号にも、注目してみてください。

半平太はこのほか、美人図を好んで画題にしています。

現存する半平太筆とおぼしき美人図には、制作年号の記載がなく、いつ頃から描き始め、いつ頃まで描きつづけたかはわかりません。

令和7年現在、制作年号が確認できた半平太の美人画は、大正6年（1917）刊行『田中青山伯』という田中光顕の評伝の巻頭に掲載されて

いる「美人弄三絃図」のみです。

「嘉永元年（1848）」に描いたとありますので、半平太が19歳（数えて20歳）の時に制作したことが割り出せます。

これを受けてか、半平太の美人図は、10代の頃作とされることが多いですが、前述のとおり、制作年代はわかっていないものがほとんどです。

本展では県内各地で確認された美人図を集めて展示をしています。

半平太の描いた色とりどりの美女たちの姿をぜひ、お楽しみください。



美人図（武市家寄贈）

企画展関連事業

県内博物館連携事業「令和土佐藩」への参加

今秋、佐川町立青山文庫が開催する「特別展 南海太郎朝尊」（10月11日～12月7日）に合わせ、県内の歴史系博物館を中心とした8館が連携事業を実施することになりました。そして、展示する刀剣「南海太郎朝尊」にちなみ、人気オンラインゲーム「刀剣乱舞ONLINE」とのコラボも決定しています。その名も「令和土佐藩」！これは、ゲーム内で実際に行われたイベント「文久土佐藩」になつたものです。連携する8館は個々に武市半平太、岡田以藏、坂本龍馬らの関係資料を展示しますが、なかでも青山文庫と高知城歴史博物館、当館の3館は「南海太郎朝尊」銘の刀を展示し、あわせて「刀剣乱舞」のキャラクターである「南海太郎朝尊」の等身大パネルを設置します。

改めて、南海太郎朝尊について紹介しましょう。

刀工・南海太郎朝尊（「ともたか」または「ちようそん」）は、本名を森岡友之助（あるいは孝之助）といい、現在の佐川町二ツ野にあたる地域の出身です。諸説ありますが文化初めごろの生まれで、刀工を志して上京、伊賀

守金道の弟子となりました。勤王の志士たちとも交流があったと伝わります。慶応四年に没するまでの間、鍛刀とともに刀剣研究にも熱心で、『刀剣五行論』『新刀銘集録』などの著作があります。

土佐の志士では、今回の企画展のテーマである武市半平太が、朝尊の刀を持っていたといわれます。万延元年、半平太は門人を連れ、九州へ剣術修行の旅に出ますが、帰りに中村や宿毛に立ち寄って高知城下に帰ります。『維新土佐勤王史』では、このとき半平太が宿毛で朝尊の刀を購入したとしています。

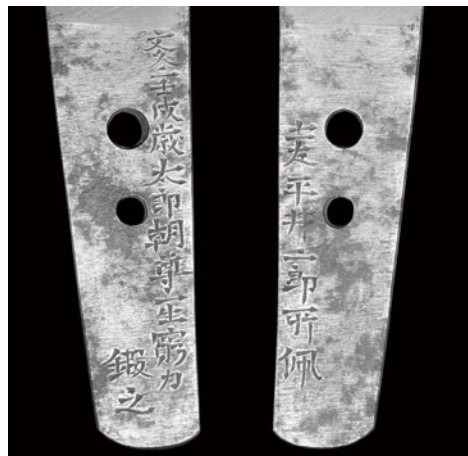
半平太の文書中には他にも朝尊が登場します。例えば文久二年在京中の日記（『武市瑞山関係文書 二』）には、朝尊に刀代を渡したと記されています。また、既に獄中にあつた慶応元年二月二十五日付の島村寿之助・寿太郎宛書簡には次のようにあります。

京ニテ七兎（註…岡田以藏）ノ折レシ肥前ノ刀朝尊ニ焼キ直サセ長キ脇指ニコシラヘ置候（後略）
朝尊は土佐へ帰っていた時期もあったようですが、いずれも京都で、半平

太と朝尊は刀を通じた接触があったとみられます。

今回の連携事業およびコラボ企画の中心は、朝尊のふるさとである佐川町の青山文庫です。佐川町では、青山文庫での展示のほか、町内スタンプラリーなどのイベントやグッズ販売も計画中です。また、連携を担当する高知城歴史博物館では「令和土佐藩」公式HPを立ち上げ、参加8館の展示資料解説シートを作成、配布します。当館でも朝尊短刀に加え、「刀剣乱舞」で以藏の刀として登場する「肥前忠広」の刀2振の展示（3階総合展示室）、朝尊短刀ほか収蔵刀剣の一部を掲載した刀剣パンフレットの刊行を予定しています。

「刀剣乱舞」コラボは、今や年間を通じて、常に日本中どこかの博物館や美術館などが開催しており、いずれも



南海太郎朝尊短刀 企画展示室で展示（個人蔵、当館寄託）

上は銘部分拡大「文久二年戊辰太刀朝尊一生窮力鍛之／土佐平井二郎所佩」

盛況ですが、南海太郎朝尊を取り上げたコラボは今回が初となります。維新志士を数多く輩出し、その志士たちと関わりのある刀も有する土佐の地を、この機会にぜひお訪ねください。

（亀尾）

「今よみがえる、長宗我部の寺——瑞応寺跡 3年間の調査記録——」展示を終えて

南国市生涯学習課文化財係 濱田 佳奈

令和4～6年度まで実施した「長宗我部一族の寺跡」発掘調査。その成果をいち早くご覧いただくこと、長宗我部フェス関連企画としてこの展示が企画されました。



展示風景

発掘調査現場である岡豊山の北麓は、冬になると霜や雪で一面が真っ白になる日があります。山肌には霜柱が立ち、山頂に向かって幾重にも連なる平坦面がキラキラと輝くその様は何とも幻想的でした。息をのむほどに美しい景色に一瞬、心を奪われますが、すぐに現実と向き合わなくてはなりません。



遺構検出する調査補助員（発掘現場）

凍った土の表面を掘削するとなると、硬くて道具の刃が通らず、午後に氷が解けてから掘削しようとする、その表面は泥濘と化します。現場作業員からは「こんなに掘るのが難しい現場は初めてや。何とかならんかね。」との声が上ががり、試行錯誤を重ねて調査を進めた日々を懐かしく思いながら、出土した土器や瓦などを展示ケースに並べました。

埋蔵文化財包蔵地「長宗我部一族の寺跡」は、元親が父・国親と母を弔うために建立した瑞応寺の比定地です。

後の江戸時代に書かれた『土佐物語』には「北谷の地を均し、石木を刻み」瑞応寺を建立したとの記述があります。その記述の通り、もともと谷地形であった北麓を丁寧な造成で整地し、平坦面をつくっていたことが今回の調査でわかりました。平坦面の端部には石積みを施し、その角には象徴的な巨石を配するという城づくりのノウハウを踏襲した造成が認められます。また、その平坦面には池状の掘り込みがあり、溝が張り巡らされ、礎石建物が建っていたこともわかりました。

その他、今回展示した当時の奢侈品である貿易陶磁器、茶道具、基石など



幾重にも連なる平坦面（発掘現場）

の遺物が出土したことも重要な発見となりました。

遺物の時期は16世紀後半が主で、ちょうど元親が活躍していた時代や『長宗我部地検帳』に「瑞応寺」が記された時期と重なります。これらの発見は、この地に瑞応寺が所在していたことを考古学的な調査から裏付ける成果となりました。

山全体が城郭化された山城・岡豊城。これまで不明な点も多い城でしたが、今回の調査で北麓の様子が鮮明に浮かび上がってきました。今後は、整理作業や検討を進め、国史跡への追加指定を目指します。

今回の展示にあたり、地権者様をはじめ、地域住民の皆様、諸先生方には多大なるご支援・ご協力を賜りました。厚く御礼申し上げます。



出土品

講演会から（令和7年8月3日）

「妖怪を集める——日本一の妖怪コレクションから読み取れること——」

湯本豪「記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）名誉館長 湯本豪一」

今ある妖怪資料は奇跡的に残ったもの
私も怪談を聞いたことがあります。

小学校低学年の頃、道路ぶちに電話ボックスがあつて、夜そこに幽霊が出るとうわさになりました。中で女性が電話しているが、近づいたら消えてしまったというのです。いつの間にか夜になると大人たちが集まり出し、やがて見物人目当ての夜鳴きソバの屋台が立ち、ついにラジオも取材にきました。

こんな経験の一つや二つは皆さんもおもちではないでしょうか。その時は大騒ぎされ、うわさとなつてもやがて忘れられてしまいます。何百年や千年以上の間には、とてつもない数の妖怪体験や妖怪事件が起こっていると思いますが、絵に描かれたり記録に残った物はその中の氷山の一角のまた一角です。残らなかったものの方が多いのです。



湯本豪一先生

す。私が
集めてき
た約5千
点の妖怪
資料は、
震災や戦

争をくぐり抜け今に残った貴重なもの
と言えるでしょう。

なんだかわからないものも集める

私が妖怪資料を集めようと考えたのは40年程前のことです。東京に住んでいるので神田の古書街も近く、妖怪資料が身近で安く買えました。妖怪研究は井上円了や柳田國男が始めて、以後の研究者が続けているわけですが、研究者が興味をもたなかった物や研究対象にならずにこぼれ落ちた資料はどうなるんだろうと思いました。

研究は当然ですが、研究と両輪をなす資料の収集、発掘、保存もやっていかないとけない。今スポットライトが当たっていない物や、わからない資料でも後世になつてわかるものがある。まず原資料を残していけないといけな
い、と考え、さまざまな物を集めるようにしました。駄菓子屋で売っている子ども向けの物などを集めたのもそのためです。

「妖怪壘（るい）」展のチラシやポスターに「鬼や天狗やなんだかわからないもののけたちがやってくる」と書いてあ

りますが、この「なんだかわからない」というのが的を射た良い言葉だと思います。まさに「わからない」資料も集めておかれないといけないのです。

妖怪博物館を作る

でも、収集してもそのまま置いておくのでは意味がありません。みんなに見てもらい、研究に供していくことが重要です。そして資料自身を後世に伝えるにはどうしたら良いだろうとも考えました。

そこから妖怪博物館を作るというアイデアが浮かんだのです。

当初は歴史や民俗の博物館に寄贈することも考えました。ただ、対象範囲

の広い博物館だと、受入時の担当者が興味をもっている間は良いのですが、その人が異動や退職などでいなくなり、別の方が来た時、その人が興味を持つとは限りません。そうなると、活用されず死蔵されてしまうかも知れません。でも、妖怪に特

化した博物館なら、職員が変わっても妖怪をやらないといけません。妖怪博物館を作るのがコレクションを活かす唯一の解決策だと考えました。

幸い広島県三次市に妖怪で町のぎわいを再生しようという動きがあつて、私のコレクションを寄贈することになり、2019年に日本妖怪博物館を開館することができました。

妖怪資料を普及し、地域の資料を残す

開館したら次の目標は、日本各地や海外で三次の妖怪資料の展示を行い、妖怪資料を知ってもらうことです。今回の企画展も、その一つですが、それをきっかけに、それぞれの地方の妖怪の話や資料に関心をもってもらい、新資料や情報を発掘して欲しい。集積して、200年後、300年後の人たちに伝え、バトンを渡したい、それが私の願いです。（要約：文責 梅野）



湯本豪一記念日本妖怪博物館
（三次もののけミュージアム）



企画展「妖怪壘」展示風景

れきみんのお正月

令和8年 1月2日(金)、3日(土)

大人から子どもまで楽しめるお正月にちなんだ催しを開催。歴民館で新しい年のスタートしませんか。



民家で囲炉裏の火焚き

毎月第3日曜日 9:30～12:00

10月19日、11月16日、12月21日、1月18日

定期的にいろいろに火を入れます。パチパチ薪がはぜる音を聞きながら、暖かい火を囲みませんか？
(予約不要)



第20回岡豊山フォトコンテスト 作品展示

11月23日(日・祝)～令和8年1月18日(日)

年末年始休館

12月27日(土)～1月1日(木・祝)

岡豊風日(おこうふうじつ) 第126号
令和7年(2025)9月1日
編集・発行 (公財)高知県文化財団
〒783-0044 高知市岡豊町八幡1099-11
TEL 088-8662-2211
FAX 088-8662-2110
開館時間 午前9時～午後5時
休館日 年末年始12月27日～1月1日
臨時休館することがあります
観覧料 (通常展)大人(18才以上)500円
(企画展)常設展示込み 700円
団体(20名以上)560円
※特別展は別に定めます
無料・高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳
所持者、身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者
保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所
持者とその介護者(1名)
印刷・川北印刷株式会社

<https://www.kochi-rekimin.jp>

Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

企画展 武市半平太の書画

10月10日(金)～1月12日(月・祝)

令和7年は、土佐勤王党の盟主・武市半平太(瑞山)が没した慶応元年(1865)から、160年の節目にあたります。

半平太といえば妻に宛てた愛情こまやかな手紙がよく知られていますが、書や画を好んだ一面もあり、県内にも数多く残されています。本展では、当館蔵及び県内各地から集めた半平太の書画や妻・富ゆかりの品々などを展示し、半平太の事績を辿りながら、その歴史に思いをめぐらせる機会にしたいと思います。

企画展関連催し

●講座「長宗我部時代の武市家」

11月16日(日) 13:30～15:00

講師：当館学芸員 青井恵理香

講座後希望者があれば、展示案内します

●ミュージアムトーク(担当者による展示解説)

①10月12日(日)・②12月14日(日) 各日13:30～14:00

※企画展関連催しは、全て観覧券要。

講座は要申込(電話・メール・FAX)、先着各100名。



武市半平太獄中自画像(部分)(武市家寄贈)

次回企画展

歴民コレクションをひもとく —あつめる、つたえる—

令和8年2月27日(金)～5月17日(日)

博物館は、資料を展示するだけではなく、資料を「収集」し、「保存」することも大切な役割です。

平成3年の開館以後、当館が収集してきた資料は、総数18万点を超えています。本展では、所蔵資料のうち、おなじみの逸品や知られざる貴重な資料などから、当館のコレクションの成り立ち、その意義を紹介します。